

法忌年上人如蓮基開寺徳本

5月12日・日曜日

午前7時半 日没礼讃勤行・引き続き法話
午前10時 無量寿経作法・引き続き説教
午後1時 説教
午後2時 奉讃大師作法・引き続き説教

説教 光明寺・長谷 都子師

演題 聞くということ

本徳寺は、蓮如上人のご意向によって、今から五百年前、本願寺勢力の西の拠点として建立されました。

十五世紀、西日本は仏光寺系の真宗寺院が勢力を伸ばし、時宗のお念仏も盛んで、本願寺の教圏は近畿から東に限られていました。

しかし、蓮如上人の御晩年には、仏光寺の経家が多数の系列寺院を引き連れて本願寺に寄属し、安芸の仏護寺（広島別院）も編入されるに及んで、一挙に西日本における本願寺の教圏が拡大されました。そのため、本願寺の拠点の必要性が高まり、蓮如上人の命により御堂衆（上人の分身として代行権を持った役職）の一人法専坊空善が英賀に下り本徳寺をこの地に誕生させたのです。

上人は、中世という迷妄にとらわれた時代に、「たすけたまへとたのむ一念」という独特の表現によって、民衆の一人一人に往生浄土を目指す自立した個人を自覚させ、社会的に下類・悪党とされた呪縛を見事に解き放されました。その教えは、

爾来本願寺の伝統教学の基幹を担い今に伝えられています。朝夕の勤行に正信偈・和讃をすすめられ、多くの門徒・同行に親しみやすく、かつわかりやすく、親鸞聖人のご法義を伝えられたご業績は他に類をみません。

蓮師亡き後、実如上人に託された中世本願寺教団にとって播州英賀本徳寺の存在は戦略的にきわめて重要でありました。そのため、一五二五年の英賀御堂完成に伴い、本徳寺に孫の実円師が入寺され、石山本山と強い連繋を持ちながら西日本の本願寺の拠点としての役割を担いました。

近年、蓮如上人由緒の中宗堂が見事に修復され、かつての播州真宗の拠点寺院が再興されました。このご法要では、このお堂で、播州の本願寺門信徒の皆様が挙って聴聞いただき、上人のご遺徳を顕彰し、ご偉業を偲ばせて載さたく思います。

